

## バーンチャロン団地（サムットプラカン県、タイ）の 共用空間の使われ方

清水 莉 恵<sup>1)</sup>・Terdsak Tachakitkachorn<sup>2)</sup>・田 中 麻 里<sup>3)</sup>

1) 群馬大学大学院教育学研究科

2) チュラロンコン大学建築学部

3) 群馬大学教育学部家政教育講座

(2014年9月17日受理)

### **Common space activities at Bang Chalong housing estate in Samut Prakan, Thailand**

Rie SHIMIZU<sup>1)</sup>, Terdsak Tachakitkachorn<sup>2)</sup> and Mari TANAKA<sup>3)</sup>

1) Graduate School of Education, Gunma University

2) Department of Architecture, Faculty of Architecture, Chulalongkorn University

3) Department of Home Economics, Faculty of Education, Gunma University

(Accepted on September 17th, 2014)

National Housing Authority has been carried out Baan Eua-Arthorn projects (BEA), which build standardised housing for low-income families since 2003. NHA has completed 309 projects that encompasses 272,256 units in 2013. Bang Chalong housing estate in Samut Prakan is constructed at the first stage of BEA projects and it is the largest housing estate among BEA projects.

In the previous research, the actual living conditions at Bang Chalong housing estate was investigated. Residents are nuclear families, couple and single person. Residents have various opportunities to join community events and activities. Residents' satisfaction toward housing estate is relatively high. The reasons are, convenience for commuting, existence of parking space, existence of spacious green area and open space.

The purpose of this study is to reveal the actual usage behavior at the common space at Bang Chalong housing estate. The resident's activities are classified into five categories such as "talk, rest and daily activities", "play and leisure activities", "trade activities", "housekeeping" and "maintenance and management of common space". There are 904 activities and 1,543 activities are counted in a weekday and in a holiday, respectively. The most frequently observed activity is "talk, rest, and daily activities" and this is seen at the space between flats. "Trade activities" is also seen along the road both in a weekday and a holiday. "Play and leisure activities" is seen 6 times more frequently in a holiday than that in a weekday.

Space between flats is used by talking, relaxing, trading and playing and used different way in a weekday and a holiday. Existing various open space is flexibly used and deal with residents' variety of activities.

## 1. はじめに

### 1-1 背景と目的

タイの住宅公団 National Housing Authority (以下 NHA) は 1973 年に設立され、中低所得者層向けの住宅供給やスラム改善事業を行ってきた。2003 年に規格化された戸建てと集合住宅などを供給するバーンウアアトーン事業 (以下 BEA 事業) を開始した<sup>1)</sup>。2013 年までに 309 プロジェクト、272,256 戸が建設され、急速・大量に供給されてきた<sup>2)</sup>。特にバンコク及びその周辺では集合住宅が多く、地方ではほとんどが戸建てである。

住みよいまち、愛着の湧くまちにしていくためには、物理的な充実と精神的な充実が不可欠であり、居住者交流は重要である。BEA 事業の初期に建設され、最も大規模な団地であるバーンチャロン団地における居住実態調査を行った<sup>3)</sup>。居住者は東北部や

バンコク周辺地域から出稼ぎにきている人も見られ、核家族や一人暮らしが多い。団地内はオープンスペースが多く、それらを利用して行事やサークル活動が行われており、居住者間交流の機会がもてるようになっている。また、居住者による住宅評価は高い。通勤の便利さ、駐車場の存在、緑の多さなどが居住地選択の理由や満足度を高める重要な要素となっていることなどを把握した。

本研究では、今後の団地・住まいづくりにおける指針を得るためにも、居住者同士の交流にとって重要となる共用空間の使われ方を明らかにすることを目的としている。

### 1-2 研究方法

屋外の共用空間がどのように利用されているかを把握するため、置かれている物品を地図上に記録した。次に、管理棟やサッカー場を含む共用空間を対

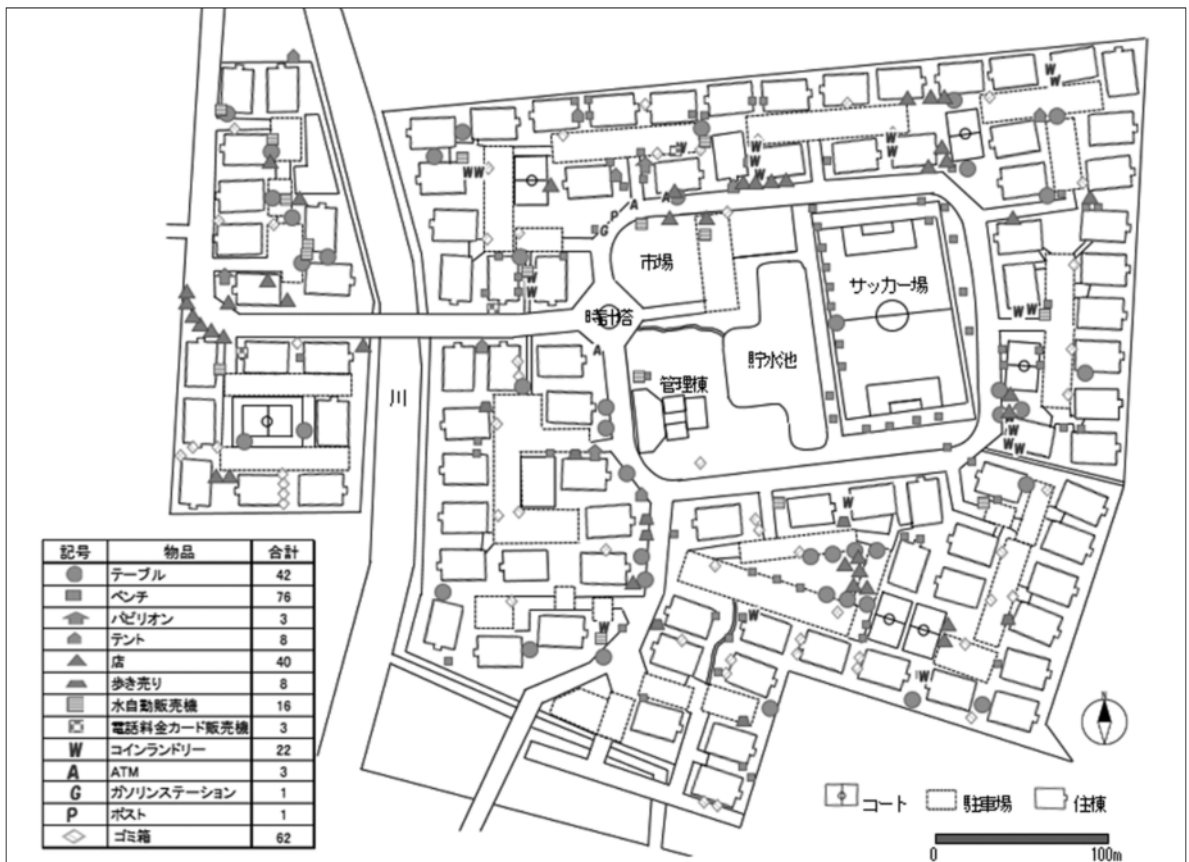


図1 団地構成と物品配置

象に、平日と休日の8時～17時までの屋外活動を1時間ごとに地図上に記録した。調査は2012年11月3日（土）、5日（月）に行った<sup>4)</sup>。居住者の特性による違いをみるために、子ども、男性、女性、高齢者と分類して、活動内容を記録した。

## 2. バーンチャロン団地の概要

バーンチャロン団地は首都バンコクの南東に隣接したサムットプラカン県にある。計画人口16,560人、4,140戸、敷地面積16.32haで、住棟92棟、広場（サッカーグラウンド、コート、遊具スペース）、市場、管理棟、貯水池、時計塔からなる大規模な団地である（図1）。

団地中央部にサッカーグラウンドがあり、それを取り囲むように住宅が建てられ、バスケットコートや広場が点在する。市場は毎日開かれており、広場や道路ではリアカーを担いで場所を変えながら商売を行う歩き売りも行われている。住棟は5階建てで、24㎡（ワンルーム）と33㎡（ワンルーム+1寝室）があり、約9割が33㎡で構成されている。

## 3. バーンチャロン団地の共用空間の使われ方

### 3-1 活動内容と空間

平日と休日の活動数はそれぞれ904、1,543である。これらの活動を、話す・飲食などの「話・休息・日常行為」、遊び・ゲームスポーツなどの「遊び・余暇活動」、販売や購買の「商業活動」、洗車・洗濯物を干すなどの「家事・作業」、道の掃除などの「共用空間の維持・管理」の5つに分類した（表1）。

また、屋外共用空間を「公園/遊具あり」「公園/遊具なし」「バスケットコート」「駐車場」「路上や道路沿い」「住棟間」の6つに分類し、みられた活動と場所との関係性を見た（表2）。

平日、休日ともに活動数が最も多いのは「話・休息・日常行為」である（図2）。「商業活動」は、平日と休日で同程度の活動がみられ、「遊び・余暇活動」は平日と比べて休日が6倍も増え、最も差が大きい。

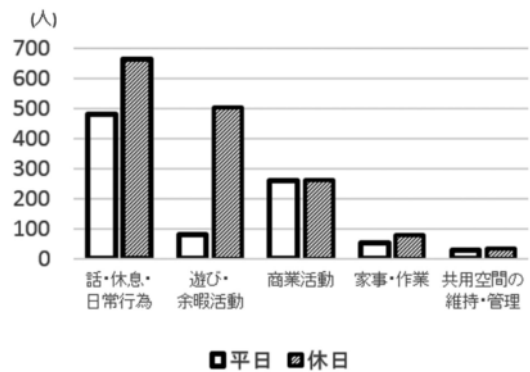


図2 団地でみられた活動数

また、全ての活動を含めて場所別にみると「南通路沿い」が最も活動数が多い（図3）。

### 3-2 「話・休息・日常行為」

「話・休息・日常行為」は「住棟間」が活動場所として最も多くみられ、1日を通して他の行為より盛んに行われている（表2、図5）。特に「北東のコート周り」で多い（図3）。ここには屋根の下で座ってくつろげる店や木陰の下にテーブルベンチが配置されている（図1）。次に、「東コート周り」「南西住棟周り」「北住棟間」で多い。これらの場所にもテーブルやベンチが配置されており、住棟間ほど狭くなく、駐車場のよう見通しがよい広い空間との間での活動がみられる（図4）。道路と住棟の空きスペースでは、話す以外に休憩をとったり、子どもの面倒を見たり、食事をする活動が見られた。人の往来を眺めながらたたくことができる空間となっていることが利用されやすい要因と考えられる。平日の「南西住棟周り」には1日中子育て中の親子の姿がみられ、たまり場として定着している様子がみられた。主要通りから舗装された小道が続いており、住棟間に入りやすく、散歩に利用されやすいことが考えられる。ただ、「南公園」にもそういった物品は揃っており、公園もあるが、あまり利用されていない。主要通りから直接見えず、駐車場に囲まれているため閉鎖的で使いにくいと捉えられているのかもしれない。

「話・休息・日常行為」は「住棟間」の次に「路

表1 団地における活動の分類

行為		平日	休日	行為		平日	休日	行為		平日	休日
1	話・休息・日常行為	481	662	1	話・休憩	277	471	1	話す	108	209
								2	座っている	81	172
								3	立っている	32	6
								4	待っている	7	0
								5	寝ている	3	6
								6	休憩・リラックス	46	78
				2	日常行為	204	191	7	飲食	64	129
								8	子どもの世話	114	26
								9	電話・メール	8	21
								10	編み物	5	3
								11	喫煙	1	8
								12	宿題をする	9	0
								13	身支度(爪切り、足を洗う)	1	3
								14	TV鑑賞	1	0
								15	新聞/本を読んでいる	1	1
2	遊び・余暇活動	81	502	3	スポーツ・運動	10	62	16	サッカー	10	30
								17	バドミントン	0	15
								18	バスケット	0	9
								19	トレーニング	0	2
								20	ランニング	0	5
								21	フィットネス	0	1
				4	遊び	70	305	22	滑り台	0	2
								23	犬と遊ぶ・散歩	2	6
								24	遊ぶ	68	297
				5	レジャー活動	1	135	25	アートワーク	1	50
								26	イベント参加	0	80
								27	園芸	0	5
3	商業活動	259	265	6	販売	254	250	28	店販買	164	191
								29	屋台販売	82	52
								30	店の準備	8	7
				7	購買	5	15	31	購入	5	14
								32	自販機	0	1
								33	洗濯物洗い/干し	10	12
4	家事・作業	54	79	8	家事	22	19	34	料理	6	3
								35	食器、ビン洗い	6	4
								36	洗車(車・バイク)	14	34
				9	作業	32	60	37	車・バイクの整備/修理	5	14
								38	家具の組み立て/修繕	2	2
								39	仕事	6	6
								40	荷積み/運搬	4	0
								41	探し物	1	3
								42	ATMを使っている	0	1
								43	道の掃除	11	7
								44	芝掃き	3	18
5	共用空間の維持・管理	29	35	10	自然の手入れ	22	31	45	芝刈り	7	5
								46	草刈り	1	1
								47	ゴミの分別	6	4
								48	ゴミ掃除	1	0
11	ゴミ掃除	7	4	47	ゴミの分別	6	4				
				48	ゴミ掃除	1	0				

※市場の中の活動及び移動(バイク、自動車の運転や歩行)、警備を除く。

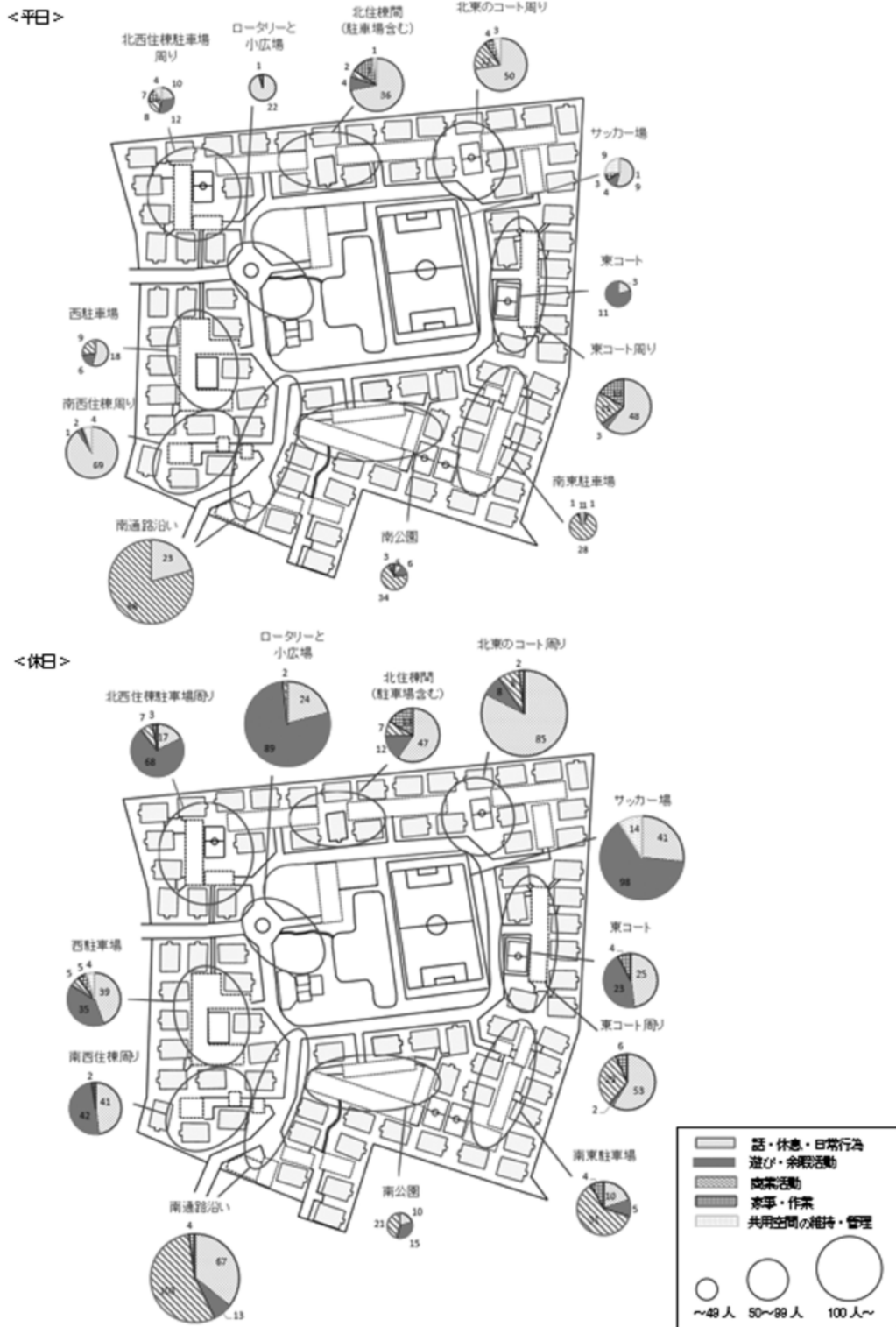


図3 主要な場所ごとにみた活動の割合

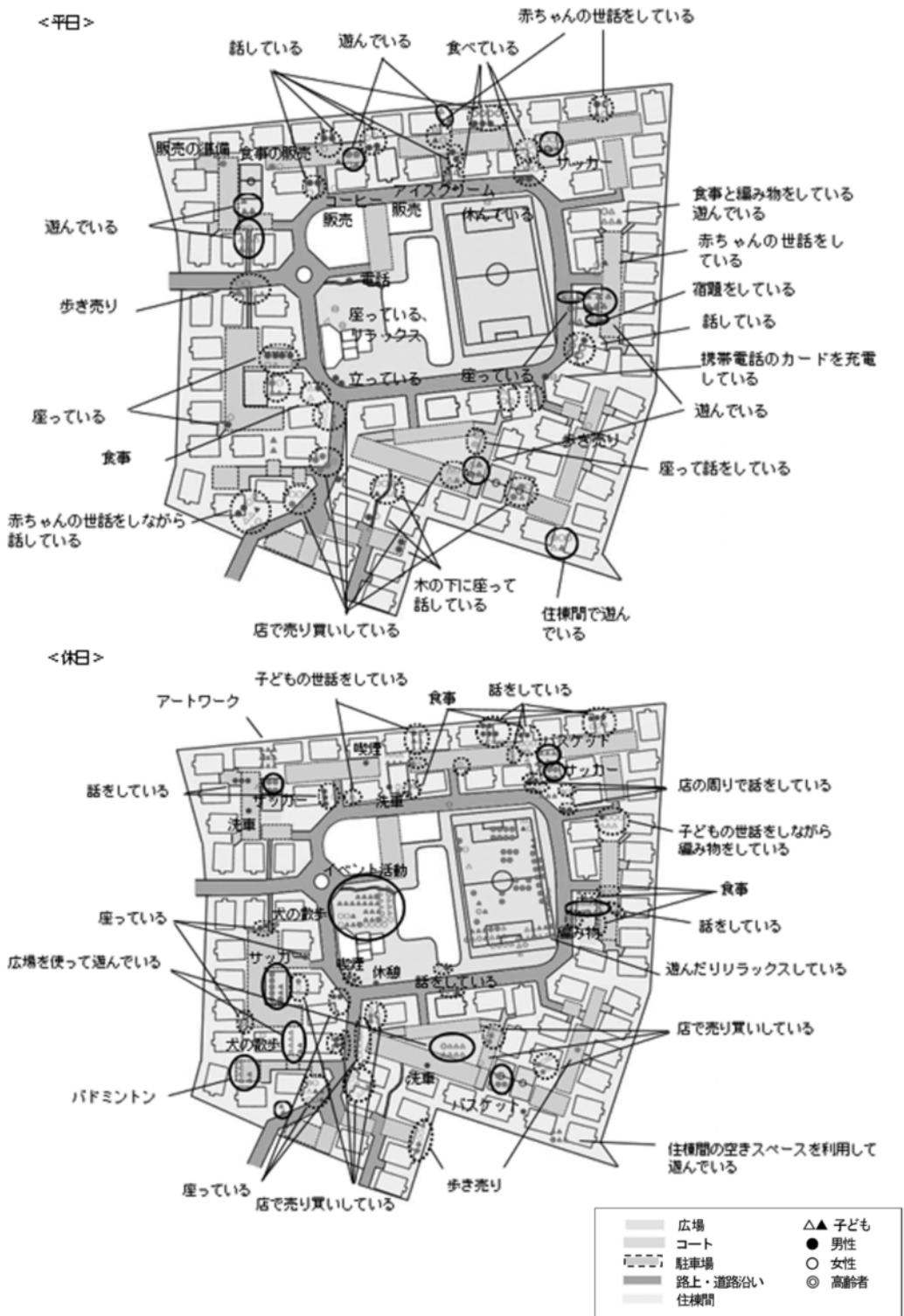


図4 平日と休日 17時ごろの活動

上や道路沿い」で多く見られる（表2）。売店の周辺や木陰で見られ、店主との交流があることや暑いタイにおいては植木によって作られる日陰の存在が話すという行為を促進させていることが伺える。

### 3-3 「商業活動」

「商業活動」は「路上や道路沿い」が多く、1日を通して「話・休息・日常行為」の次に多い（図5）。特に「南通路沿い」での活動が活発である（図3）。屋台での販売が多くみられ、団地入口の近くで市場との距離もあることから店を展開しやすいと推察される。また、店での販売は公園やコート周り、駐車場のような人の目に触れ、かつ人が行き交う場所が

選ばれている。

「住棟間」では平日は多いものの休日は少なくなる（表2）。休日になると「遊び・余暇活動」が「住棟間」で増えるため、歩き売りの場所を変えていることも考えられる。

「商業活動」は10時頃と15時以降に増加しており、食事や買い出しが増えている（図5）。「話・休息・日常行為」も同様に増加しており、食事をしながら話したり、買い出しついでに立ち話といった屋外時の居住者同士の交流がみられる。

### 3-4 「遊び・余暇活動」

「遊び・余暇活動」は、平日と比べ休日に約6倍

表2 活動場所と活動数

〈平日〉

		日話・休息・日常行為	活遊・余暇活動	商業活動	家事・作業	維共用・空間管理	合計
広場	遊具あり	20	4	12	8	0	44
	遊具なし	32	8	3	0	10	53
コート		3	15	11	2	0	31
駐車場		39	16	55	18	13	141
路上や道路沿い		114	6	118	20	1	259
住棟間		273	32	60	6	5	376

〈休日〉

		日話・休息・日常行為	活遊・余暇活動	商業活動	家事・作業	維共用・空間管理	合計
広場	遊具あり	26	75	10	0	0	111
	遊具なし	68	201	2	1	24	296
コート		26	74	5	4	0	109
駐車場		73	45	62	31	5	216
路上や道路沿い		183	7	148	21	4	363
住棟間		286	100	38	22	2	448

※サッカー場は「公園／遊具なし」に含む。

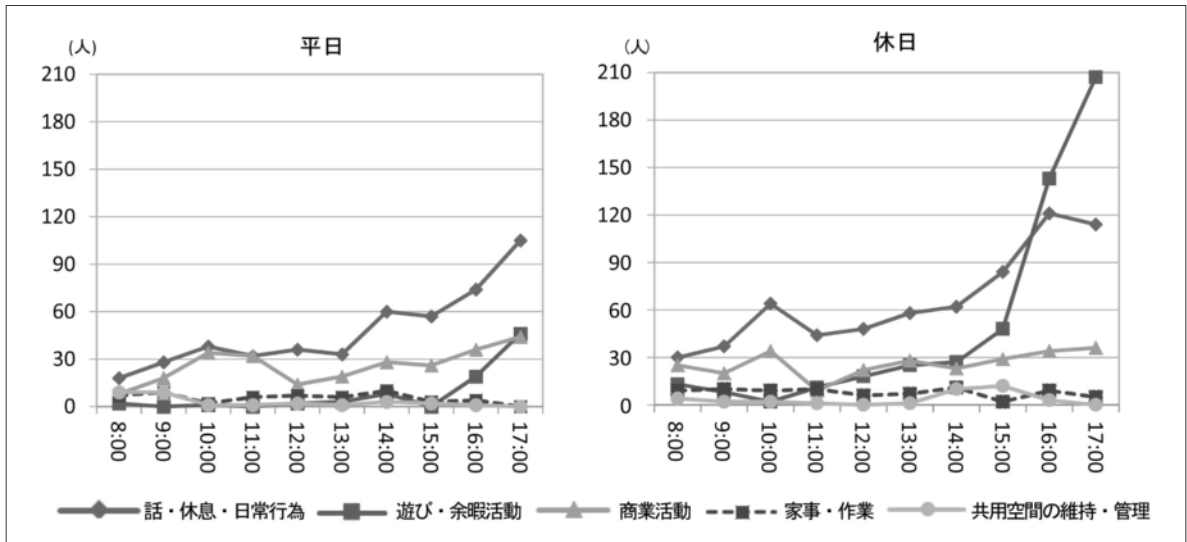


図5 時間ごとにみる活動内容

増えている。平日と休日で最も差が大きいのはサッカー場である(図3)。サッカー場は休日に主に使われている。休日は遊びが増え、サッカー場、管理棟横の広場や駐車場周辺等、広い空間が使われる。

さらに平日では1人～5人での少人数での遊びが多く、休日では8人以上の大人数で広場を使った遊びが多く見られる(図4)。平日は近所の子どもたちと少人数で遊んでおり、そのため、住戸に近い住棟間が選択されている。住棟間の方が広場より空間が複雑であり、遊ぶ要素が豊富にあるとも考えられる。また、囲み配置型の団地であるため、住棟前でも人の目に触れやすく、安心して遊んだり、遊ばせることができる。

夕方15時頃になると「遊び・余暇活動」の活動が増えてくるが、休日より活動が顕著となる(図5)。

### 3-5 「家事・作業」と「共用空間の維持・管理」

「家事・作業」と「共用空間の維持・管理」は活動数が少なく、使用されている場所も様々である。「家事・作業」は「北住棟間(駐車場含む)」「東コート周り」で一定の活動数がみられ、駐車場での洗車や昼食を作る様子が見られた。8～10時、14時頃に活動がみられる。朝の涼しい時に車の洗車を行ったり、昼食の後片付けなどがみられる。

「共用空間の維持・管理」は「サッカー場」においてまとまった活動がみられ、芝刈りや掃除といったグラウンドの整備活動がみられた。休日14、15時

にみられる増加はサッカー場の芝生の掃除を集団で行っているためである。居住者による自主的な活動の他に、団地の清掃のために雇用されている者もいる。道の清掃は常に行われており、「家事・作業」同様、朝の涼しい時間に道の掃除や芝の手入れなどが行われている。

### 3-6 居住者の特性からみた1日の活動数

1日を通して夕方に屋外の活動数が増える(図6)。平日と休日では、朝から14時頃まではやや休日の方が活動数が多い(図6)。15時以降に大きく違いがみられ、平日は子どもと女性の活動数が増え、休日は子ども、男性、女性の活動数が増える。

平日の夕方は親子が集まって話をしたり、宿題をしているグループがみられた(図4)。小道が続く小空間や木陰が利用されている。また駐車場や住棟間で遊ぶ子どもの姿もみられる。休日の夕方はコートや広場で遊ぶ子どもと男性の姿が多くみられ、サッカーやバドミントン、バスケットといったゲームスポーツもみられる。女性は店やテーブルのあるところで食事や話をしていたり、遊んでいる子どもの様子を見たりしている。

高齢者は1日を通して、平日・休日を比較しても増減がなく一定である。ヒアリング調査<sup>9)</sup>から得られた高齢者が少ない現状を反映しているとも考えられる。

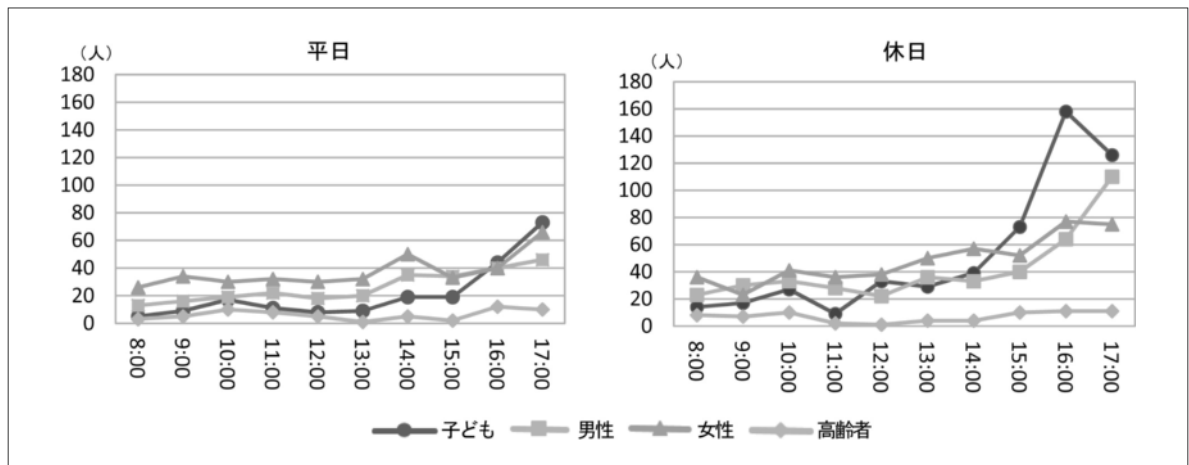


図6 居住者の特性からみた活動数



## 4. 結 論

バーンチャロン団地の管理棟やサッカー場を含む共用空間を対象に調査を行った。

平日 904、休日 1,543 の活動がみられ、これらの活動を、「話・休息・日常行為」、「遊び・余暇活動」、「商業活動」、「家事・作業」、「共用空間の維持・管理」の5つに分類した。

平日、休日ともに活動数が最も多いのは「話・休息・日常行為」である。「商業活動」は、平日と休日で同程度の活動がみられ、「遊び・余暇活動」では休日は平日の約6倍も活動が増え、最も差が大きい。

「話・休息・日常行為」は1日を通して他の行為より盛んに行われている。「住棟間」が活動場所として最も多く、「北東コート周り」が特に利用されている。つぎに多いのは、「東コート周り」や「南西住棟周り」である。これらの場所には、テーブルやベンチ、店が配置されており、腰をかけて、ゆっくり過ごすことができる空間となっている。多くの人に利用される共用空間と少人数あるいは個人で利用できる空間がどちらも近くにあることが重要だと考えられる。

「話・休息・日常行為」の次に多くみられた活動は「商業活動」で平日、休日ともに同程度みられた。「路上や道路沿い」で多く、とくに「南通路沿い」での商業活動が活発である。団地と外部をつなぐ道であるが直線的な大通りではなく見通しがききにくいこと、テーブルやベンチが多く置かれていること、人の往来も多く、そうした人たちをながめながら過ごすことができる場所となっている。

「遊び・余暇活動」は、平日と休日で最も差が大きく、サッカー場は主に休日に使われている。休日は広い空間が活用されている。

住棟間のスペースは、平日休日ともによく利用されている。また、休日は、住棟間での遊びや余暇活動が増える一方、商業活動が少なくなっている。同じ空間でも平日と休日で使われ方が異なる。これは、住戸近くの小規模な空間やサッカー場や広場のよう

に大規模な集団で使われるオープンスペースなど、さまざまな屋外空間が用意されていることで、居住者の活動の幅が広がっても柔軟に対応できているためだと考えられる。

## 謝辞

本調査にあたり、Chulalongkorn University、Dr. Terdsak Tachakitkachorn 研究室の学生の皆様、Thammasat 大学 Dr. Jaturong Pokharatsiri に協力をいただいた。National Housing Authority の Assistant Governor Mr. Thanongsak Wikul、Mr. Torphong Jamchod、Ms. Khanitta Kolaka をはじめとする職員の方々、バーンチャロン団地の居住者の皆様にも厚く御礼申し上げる。

本研究の一部は、平成 24 年度科学研究費補助金基盤研究 C（課題番号 24560731 研究代表者 田中麻里）により実施したものである。

## 注

- 1) BEA 事業はタイ政府による内需拡大を目的とした政策のひとつで、住宅タイプはフラット、戸建て、2戸1住宅、長屋の4種類がある。
- 2) NHA、Policy and Planning Department から入手した資料による。
- 3) 参考文献1による。
- 4) 調査はチュラロンコン大学の学生に協力を得て行った。3エリアに分けて記録した。
- 5) 2012年9月に実施調査したところ、団地組合職員からのヒアリング結果による。

## 参考文献

1. 清水莉恵、田中麻里（2013）：バーンウアアトーン住宅事業におけるバーンチャロン団地（サムットプラカン県、タイ）の居住実態、群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編 第48巻、pp175-183
2. 田中麻里（2006）：タイの住まい、圓津喜屋
3. 尹 俊到、閔 丙昊、木多道宏、舟橋國男（2004）：ベトナムの居住地と韓国の集合住宅団地における子どもの外部空間行為の比較研究 「資源」概念の提案と行為-資源関係の考察、日本建築学会計画系論文集 第576号、pp59-66
4. 脇田祥尚（2013）：スラムの計画学-カンボジアの都市建築フィールドノート